



知と徳を探究し 新たな価値の創出を

東北学院大学 学長 大西 晴樹

学校法人東北学院第十三代院長(2020年～)。東北学院大学第六代学長(2019年～)。元明治学院大学学長、前学校法人明治学院学長。元文部科学省高等教育局私学部参事官付学校運営調査委員。専門は、イギリス社会経済史。近著に『海洋貿易とイギリス革命』(法政大学出版局)、『ヘボンさんと日本の開化』(NHK出版)など。

東北学院大学の沿革

- 1886(明治19)年 押川方義とW・E・ホーイ両氏の協力により、キリスト教伝道者育成の目的を持って「仙台神学校」を開校。
- 1891(明治24)年 校名を「東北学院」と改称する。予科2年、本科4年、神学部3年に学制変更し、近代教育機関としての形態が定まる。
- 1901(明治34)年 D・B・シュネーダー院長就任。「献身犠牲」のキリスト教精神をモットーとして、本学院存立の使命達成に向けて献身。
- 1918(大正7)年 専門部を改組し、神学科、文科、師範科、商科とする。
- 1941(昭和16)年 太平洋戦争が始まり、キリスト教学校としての苦難の道が続く。
- 1946(昭和21)年 英文科、経済科を含む東北学院専門部を開設。米国ミッションボードとの提携回復。
- 1949(昭和24)年 専門部を、教育基本法・学校教育法に基づいて大学に昇格し、文経学部(英文学科・経済学科)を設置。
- 1951(昭和26)年 「学校法人東北学院」設置認可。
- 1962(昭和37)年 大学工学部(機械工学科・電気工学科・応用物理学科)を多賀城市に新設。
- 1964(昭和39)年 文経学部を文学部一部(英文学科・基督教学科・史学科)、同二部(英文学科)、経済学部一部(経済学科・商学科)、同二部(経済学科)に分離。大学院文学研究科(修士課程)を設置。
- 1965(昭和40)年 大学院経済学研究科(修士課程)と法学部を設置。
- 1967(昭和42)年 工学部に土木工学科を設置。
- 1986(昭和61)年 創立100周年記念式典を挙行。
- 1988(昭和63)年 泉キャンパス開学。文・経済・法学部の教養課程を泉キャンパスに移転。
- 1989(平成元年)年 教養学部(教養学人間科学専攻・言語科学専攻・情報科学専攻)を泉キャンパスに新設。
- 2000(平成12)年 文学部英文学科、経済学部経済学科・商学科に昼夜開講制を導入。
- 2005(平成17)年 教養学部を改組し、人間科学科、言語文化学科、情報科学科とする。地域構想学科を設置。
- 2006(平成18)年 工学部を改組し、機械知能工学科、電気情報工学科、電子工学科、環境建設工学科とする。
- 2009(平成21)年 経済学部を改組。経済学部経済学科と新たに共生社会経済学科を設置。経済学部経営学科は経営学部経営学科に改組。経済学部経済学科、経営学科の夜間主コースの募集を停止。
- 2011(平成23)年 文学部を改組。キリスト教学科は募集停止。総合人文学科を新設。
- 2015(平成27)年 文学部英文学科の夜間主コースの募集を停止。
- 2016(平成28)年 ホーイ記念館竣工。創立130周年。
- 2017(平成29)年 工学部を改組し、電気情報工学科を電気電子工学科に名称を変更し、電子工学科の募集停止。情報基盤工学科を設置。
- 2018(平成30)年 文学部に教育学科を設置。
- 2023(令和5)年 五橋キャンパス開学。多賀城・泉キャンパスの機能を集約。経済学部、工学部、教養学部を改組。共生社会経済学科、情報基盤工学科、人間科学科、言語文化学科、情報科学科、地域構想学科は募集停止。地域総合学部(地域コミュニティ学科・政策デザイン学科)、情報学部(データサイエンス学科)、人間科学部(心理行動科学科)、国際学部(国際教養学科)を新設。

ワンキャンパスが生み出す 融合と共創

五橋キャンパスの開学により、隣接する土樋キャンパスを含めた「ワンキャンパス」が実現し一年余りが経ちました。学生の「やる気が出るキャンパス」という声を聞き、また生き生きと集う姿を目にして大変うれしく感じています。

新入生から4年生までが同じ場所で学ぶことは非常に高い教育効果があります。また総合大学の長所を活かし、それぞれの専門分野を深め合う「文理融合教育」が一つのキャンパスで全学生に実施できることも、大きな強みとなりました。多様な専門性を持つ学生が一つのテーブルを囲み同じテーマを語り合う中で、新たな価値観に出会い、相互に化学反応を起こすことができるでしょう。

大学が持つ知および人材の資源は、地域との共創を通してさらに価値が高められます。都心にキャンパスを構えたことで、地元と密接な関係を築く足がかりができました。周辺の歴史ある商店街との交流や、「未来の扉センター」を拠点にした産学・官学連携活動が始動しており、近隣町内会の方々からも「学生ボランティアの活動が地域振興に役立っている」と歓迎していただいています。「第一回五橋祭」には商店街から多くの店舗が出店され、大いに賑わいました。地域との共創は大学の社会貢献だけでなく、学生にとっても大変意義があります。どんどん地域に出ていって視野を広げ、経験を重ねてほしいと願っています。

地域の学びを グローバルな視点へ

時代のニーズや地域の課題に応えるべく、2023年度に「地域総合学部(地域コミュニティ学科・政策デザイン学科)」、「情報学部(データサイエンス学科)」、「人間科学部(心理行動科学科)」、「国際学部(国際教養学科)」の4学部5学科を新設し、それぞれが着実に歩みを進めています。社会課題が増す中で本学がめざすべきは、「地域」「人間」を深く学び、「情報」というツールを活用して、多様性に対応して「国際」的な広がりを持つこと。この3段階の学びを実践し、豊かな社会づくりに貢献してまいります。

世界に目を向けた学びの一環として、留学にも力を入れています。現在ウクライナから3人の留学生を迎えているほか、アジアやヨーロッパとの交換留学も行っています。今後は、本学に留学した学生の仙台、東北での就職サポートも進め、グローバル社会の実現と東北の国際化、経済の活性化に貢献できればと考えています。

「世界にまだないもの」を 東北から

急激に変化する時代の中でも、東北学院大学が創設以来変わらず掲げてきた建学の精神が「LIFE LIGHT LOVE」です。私たちは智徳並行の大学として、キリスト教による人格教育に重点を置いています。

新入生は教義と歴史を学び、キリスト教の正しい理解を通して人間観や世界観を得ていきます。それは彼らが将来社会で困難に出合ったときにこそ、自ら道を選択し壁を乗り越える力となって発揮されるでしょう。

本学では11,000人の学生と300人を超える研究者、彼らを支える多くの職員が在籍しており、知と技術が集約された都心のキャンパスで学びが深められ、つながり、広がることをめざしています。東北地方は独自の豊かな文化を持つ反面、著しい少子高齢化やDX化の遅れなど課題も抱えます。その中で課題に向き合い、地域の魅力を活かした取り組みを通して、世界のどこにもない価値を東北に生み出し発信する。それは、大学だからこそ実現できるわれわれの使命です。東北学院大学には皆さんが個性を発揮し、豊かな経験を重ね、人間として成長できる環境があります。存分に学び、大きく羽ばたいてください。

